

1 昨年度の取組の成果と課題

○確かな学力の定着 ○心の教育の充実 ○基本的な学習習慣の定着と健やかな体の育成

2 今年度の目標と目標達成に向けた方策

(1) 確かな学力の定着

- ①学習の手引き、学習・生活取組表を活用し、家庭学習を習慣化（学年×10～15分）する。
- ②「東っ子タイム」（スキルタイム）を設定し基礎基本の定着を図る。
- ③めあてとまとめが明確にわかる一時間完結型授業を徹底する。

(2) 心の教育の充実

- ①生徒指導や児童会で、「無言・さしすせ」掃除を中心に「にわびこ」に取り組む
- ②校舎内での「にこにこ挨拶」「言葉遣い」に取り組む
- ③読書活動を充実させることで優しい心を育てる。

(3) 基本的な生活習慣の定着と健やかな体の育成

- ①保護者、子どもへ「早寝・早起き・朝ご飯」「自力登校」の大切さを働きかける
- ②体育学習と関連した外遊び運動の目標を設定する。
- ③体を使った昔の遊びを学級活動や児童集会等で遊べる。

3 重点目標と具体的な方策

(1) 単元末、学期末の学習定着80パーセント以上を8割

- ①学習の手引き、学習・生活取組表を活用し、家庭学習を習慣化（学年×10～15分）する。
- ②「東っ子タイム」（スキルタイム）を設定し基礎基本の定着を図る。
- ③めあてとまとめが明確にわかる一時間完結型授業を徹底する。

4 自己評価結果

評価項目 (重点目標)	評価指標 (達成指標)	評価内容 (重点的取組)	取組指標	対象	参考数値	評価	成果及び達成状況	課題及び次年度への改善方策
確かな学力の定着	単元末、学期末の学習定着80%以上を8割	○学習の手引き、学習・生活取組表を活用し、家庭学習を習慣化（学年×10～15分）する。	○毎日、家庭学習ノートをチェックし、指導する。放課後にしてきていない子の指導を実施する。学習・生活取組表は、毎月提出点検する。	児		4	・宿題忘れがほとんどなかった。 ・毎日の提出物をその日のうちにチェックできず指導が後手にまわったり個別指導の時間がとれなかったりすることがある。 ・放課後残せない時があった ・学習内容にあった家庭学習を出した。 ・担任とともにチェックをし定着を図った。 ・家庭学習の添削を徹底した。 ・学習・生活取組表の提出率はあがっている。保護者のコメントも増えた。	・提出物をその日のうちにチェックと個別指導 ・学習生活取組表は保護者への呼びかけ、児童への声かけ、教師の評価が大事。
		○「東っ子タイム」（スキルタイム）を設定し基礎基本の定着を図る。	○月水金の朝読書、火木の国算ドリルを実施する。8：30～8：45の15分間実施する	児職	ほとんど毎週	4	・プリントを計画的に取り組んだ。・朝の時間の過ごし方が定着している。 ・テストのやり直しをさせてもよいと思った。 ・毎週木曜日は担任と共に採点や指導にあたることができ補充学習にもつながった。 ・ほとんど実施できた。 ・東っ子タイムの取り組みも充実させることができた。	・東っ子タイムの取り組みの継続
		○めあてとまとめが明確にわかる一時間完結型授業を徹底する。	○一人1回の提案授業と互見授業を実施する。（全教職員）	職	一人1回以上	4	・心がけてはいるがまとめまでいけない時がある。 ・常に心がけやってきた。 ・できるだけ授業で課題の提示、まとめを行うよう努力した。	・継続
心の教育の充実	○学期末の「いじめ調査」で「いじめが現在も続いている」を0にする。	○生徒指導や児童会で、「無言・さしすせ」掃除を中心に「にわびこ」に取り組む	○毎日の掃除中の放送や児童集会で必ず「無言・さしすせ」の話をする。	児		3	・無言清掃はまだまだが以前に比べれば進歩している。 ・子ども意識が高まってきた。無言清掃を全クラスが取り組めるようになるとよい。 ・取りかかりが遅れ気味だったりつついとおしゃべりしたりの実情である。無言より掃除をさせること自体に指導を要した。 ・まだまだ指導が必要であると感じる場面があった。 ・無言清掃はかなり定着してきた。	・掃除時間教員もまわる。 ・掃除の指導を45月にしっかりと取り組む。 ・無言清掃の指導がまだ必要。
		○校舎内での「にこにこ挨拶」「言葉遣い」に取り組む	○全学年、学級活動の時間に毎週1回笑顔で挨拶することに触れる。	児職		3	・朝教室に入る時まず大きな声で挨拶して入るクラスがあり気持ちいいと感じた。・学校内では挨拶が定着できているが地域ではどうか。 ・つい言い忘れてしまった。 ・職員室への入室の仕方などもよくなった。廊下でもよく挨拶できる。 ・挨拶や返事の指導は繰り返し行ったがまだ十分ではない。	・挨拶、返事、職員室入室の指導の継続 ・地域での挨拶
		○読書活動を充実させることで優しい心を育てる。	○毎月一人5冊以上、年間一人60冊以上の読書に取り組ませる。※推薦図書を紹介や多読賞により、意欲喚起を図る。	児	一人100冊以上	4	・毎週必ず読書の時間を確保した。ほとんどの子どもが図書室を利用している。・隙間時間など本を広げているが内容はどうか？個別の指導が必要な場合もある。・授業の合間プリント学習の後など静かに本を読む姿が多く見受けられる。個人差がある。 ・司書の先生の協力で全員の子どもたちに折を見て呼びかけることができた。	・本を読むというのは定着してきている。 ・本の内容はどうだったかの個別の指導。 ・学年の推薦図書を読むように指導。 ・隙間時間の活用
基本的な生活習慣の定着と健やかな体の育成	○早寝・早起き・朝ご飯を守っている子ども、歩いて登下校する子どもの割合を70%以上（自分から）	○保護者、子どもへ「早寝・早起き・朝ご飯」「自力登校」の大切さを働きかける	○学習・生活取組表は、毎週活用の働きかけ、毎月点検、学校だより、HP、学級だよりで「早寝・早起き・朝ご飯」「自力登校」の様子を伝える。	児保	生活取組表	3	・早寝早起きは社会体育の過剰さも阻害の一因となっている。 ・1年生から車できている家庭は子どもも保護者の意識も変えにくい。 ・自力登校ができている子とそうでない子がそれぞれ定着してきている。 ・家庭の協力が必要なだけのなかなか難しい。 ・学習・生活取組表での振り返りで各家庭で生活の見直しも少しずつできてきた。	・年度当初社会体育の方へのお願い ・自力登校できていない子への指導（1年生への指導） ・家庭への協力の依頼
	○運動や外遊びの好きな子どもの割合を80%以上	○体育学習と関連した外遊び運動の目標を設定する	○毎週水曜日13：25～13：35に10分間運動タイムを設けて、外遊びの目標に沿った運動をさせる。（1校1実践）	児教	学校評価	4	・3学期は運動タイムが少なかった。 ・よく外遊びをしている。 ・3学期は体育と関連させての内容ができなかった。 ・雨天のためになかなか実施できなかった。 ・（2）環境を整えることの大切さを感じる。ラインや道具をそろえれば子どもたちが自主的に体を動かしている。	・代わりになるものを考えてもよかったのでは。ストレッチ等
		○体を使った昔の遊びを学級活動や児童集会等で遊べる	○月1回の児童集会で昔遊びを取り組む。	教		3	・時間的に厳しい。月1回の昔遊びは実施できなかった。ゲーム集会だけでは不十分なのでもっと時間をとりたい。	・ゲーム集会の設定

